福祉に関するアンケート調査
（上士幌町第６期障がい福祉計画に係るアンケート）
集計結果報告書

令和２年１０月

上士幌町

目　　次

調査概要〈共通〉 1

調査の目的 1
調査の方法 1
この報告書の留意点 1

調査結果〈障がい者〉 2

回答者の基本事項 2
支援の必要性の度合い 3
障がいの状況 5
住まいや暮らし 6
外出について 7
日中活動や仕事について 9
相談相手について 12
権利擁護について 13
災害時の避難等について 14
これからのまちづくりについて 15
その他 16

調査結果〈福祉サービス利用児童等〉 18

回答者の基本事項 18
支援の必要性の度合い 19
障がいの状況 20
住まいや暮らしについて 21
外出について 22
相談相手について 24
権利擁護について 25
災害時の避難等について 26
これからのまちづくりについて 27
その他 28

調　査　概　要

調査の目的

本調査は、令和２年度内に策定を行う第６期障がい福祉計画の基礎資料として、本町の障がいのある方やそのご家族の生活状況やご意見を的確に把握し、各種施策の推進に活用することを目的として実施したものです。

調査の方法

	障がい者	福祉サービス利用児童等
対　象　者	町内にお住いの、 ○　18 歳以上（高等学校卒業後）65 歳未満の障がい者手帳をお持ちの方　６３名 ○　障がい者手帳を所持していないが障害福祉サービスを利用している方（年齢を問わない）　５名 計　６８名	町内にお住いの、 ○　18 歳以下（高等学校卒業前）の障がい者手帳をお持ちの方　１６名 ○　障がい者手帳を所持していないが障害児通所支援を利用している方　１８名 計　３４名
調査期間	令和２年７月３１日～８月２８日	
調査方法	配布：郵送　／　回収：郵送または窓口	
回答者数	４４名	２２名
回　答　率	６４．７％	６４．７％

この報告書の留意点

この報告書の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

○「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。

○「ｎ」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。

○ 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数第 2 位以下を四捨五入し、小数第 1 位までを表記します。このため、すべての割合の合計が 100%にならないことがあります。

また、複数回答（2 つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が 100%を超えることがあります。

○ 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。

○ 質問文を一部省略しています。

○ グラフ及び文章中、選択肢を一部省略しています。

○ グラフでは、見やすさを優先し「0.0%」の数値表示を省略しているものがあります。

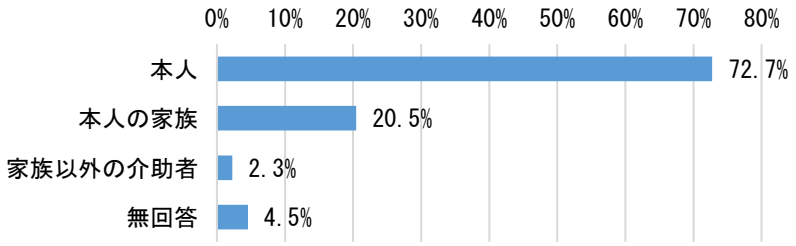
調査結果〈障がい者〉

回答者の基本事項

・質問文中「あなた」とあるものは、障がい者ご本人のことです。

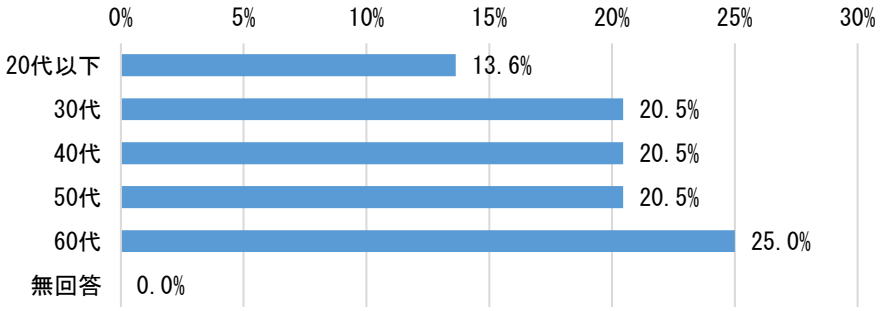
・グラフ内に注記がない場合は、ｎ（人数）は４４名です。

問１　お答えいただくのは、どなたですか。



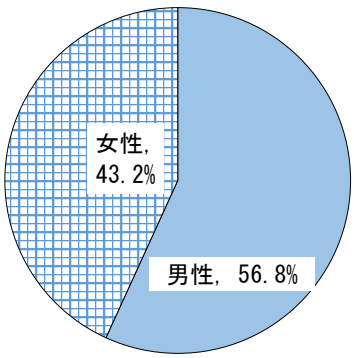
アンケートの回答者	n
本人	32 人
本人の家族	9 人
家族以外の介助者	1 人
無回答	2 人

問２　あなたの年齢をお答えください。



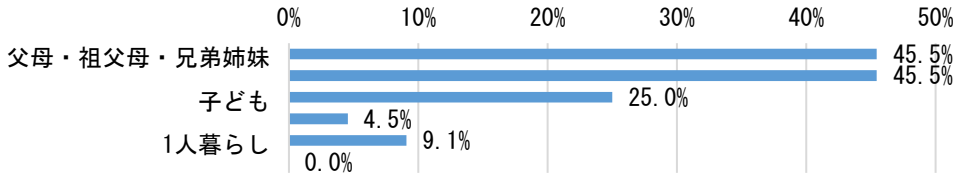
年齢	n
20 代以下	6 人
30 代	9 人
40 代	9 人
50 代	9 人
60 代	11 人
無回答	0 人

問３　あなたの性別をお答えください。



性別	n
男性	25 人
女性	19 人
無回答	0 人

問４　いま、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（複数回答）



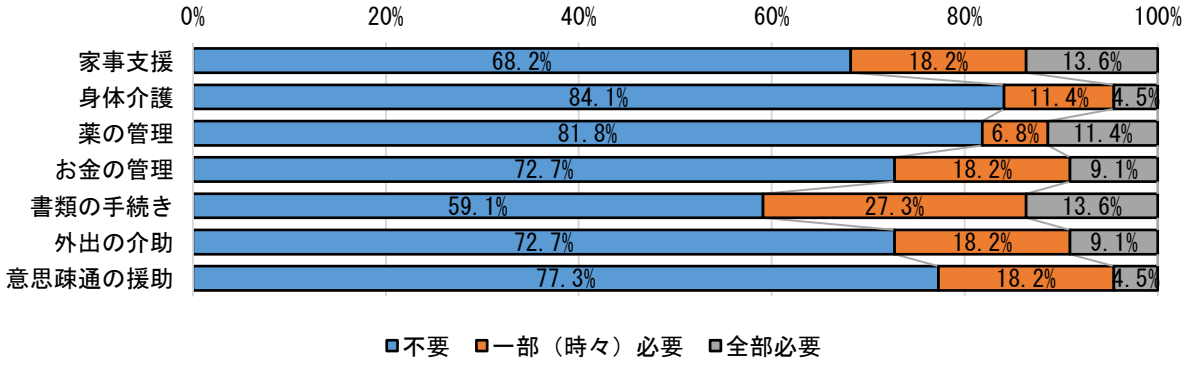
■その他の内容

介助者、婚約者

支援の必要性の度合い

一部必要と全部必要の合計では、「書類の手続き」40.9%、「家事支援」31.8%、「お金の管理」と「外出の介助」27.3%の順に多くなっています。一方、身体障がいでは「家事支援」や「外出の介助」が最も割合が高くなるなど、障がい種別では異なる結果となりました。知的障がいは他の種がいと比較すると全体的に支援の必要性の度合いが高くなっています。

問５　日常の生活の中で、次の支援が必要ですか。

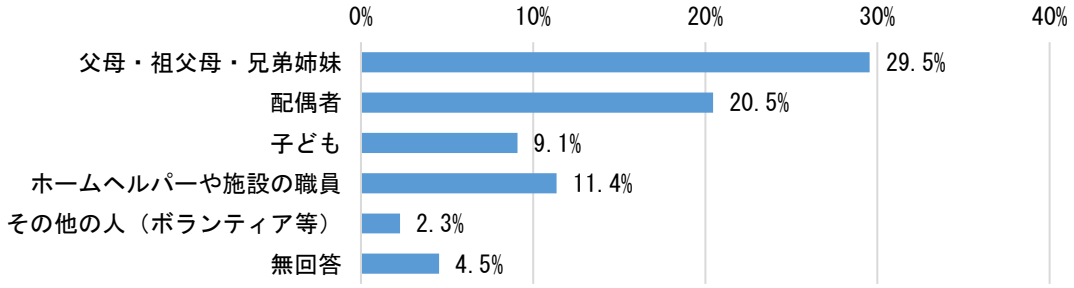


支援の必要性の度合い（一部必要・全部必要の合計）×　障がいの状況

	全体	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい
家事支援	31.8	30.0	44.4	37.5	55.6
身体介護	15.9	15.0	33.3	0.0	11.1
薬の管理	18.2	6.7	33.3	12.5	22.2
お金の管理	27.3	6.7	66.7	25.0	22.2
書類の手続き	40.9	15.0	77.8	50.0	44.4
外出の介助	27.3	30.0	33.3	12.5	22.2
意思疎通の援助	22.7	20.0	33.3	12.5	22.2

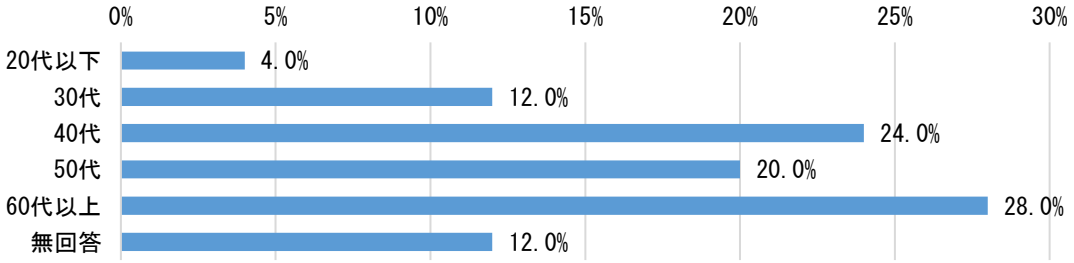
（単位：%）

問６　あなたを支援してくれる人は主に誰ですか。（複数回答）

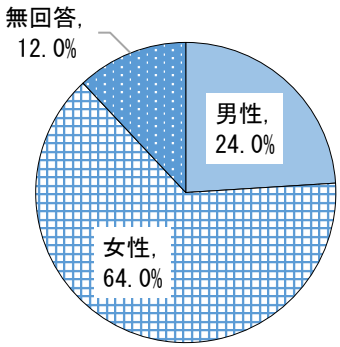


問７　支援してくれる家族の状況について（問６で家族と回答した者）ｎ＝25

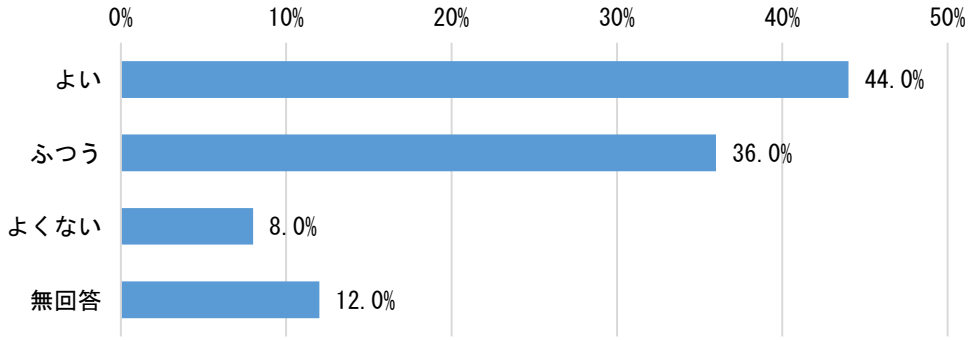
①年齢



②性別



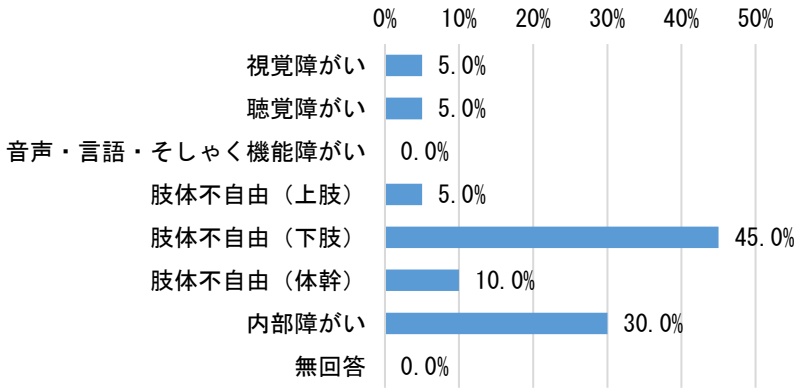
③健康状態



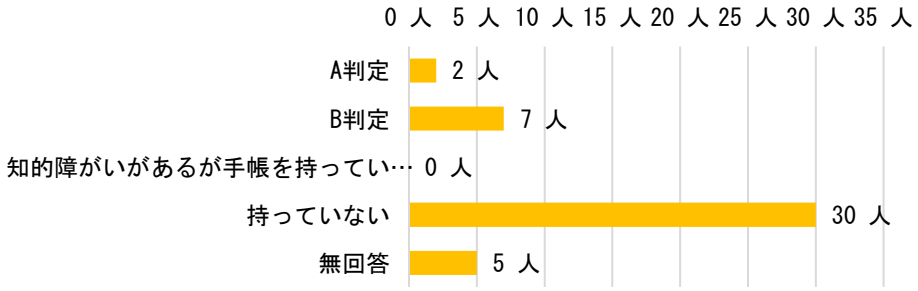
障がいの状況

問８　あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。

問９　身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。

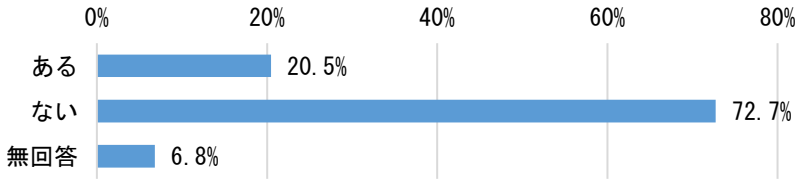


問１０　あなたは療育手帳をお持ちですか。



問１１　あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

問１２　あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。

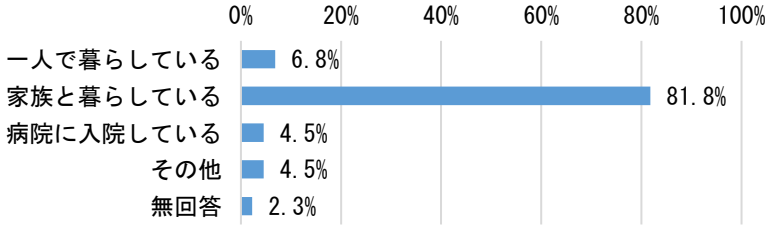


住まいや暮らし

現在、81.8%（36 名）が家族と同居しており、３年後の希望についても、「家族と一緒に生活したい」が 72.7%（32 名）と最も多くなっています。一方、現在は家族と同居していますが、「一般の住宅で一人暮らしをしたい」と回答した方が２名、あるいは「グループホームを利用したい」と回答した方が１名いました。

希望する暮らしのための支援としては、「経済的な負担の軽減」52.3%、「相談対応等の充実」34.1%、「在宅サービスが適切に利用できること」31.8%の順に多くなっています。

問１３　あなたは現在どのように生活していますか。

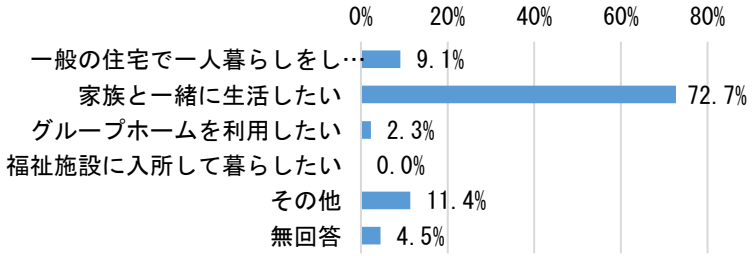


住まいの状況	n
一人で暮らしている	3 人
家族と暮らしている	36 人
病院に入院している	2 人
その他	2 人
無回答	1 人

■その他の内容

婚約者と暮らしている

問１４　あなたは今後３年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。

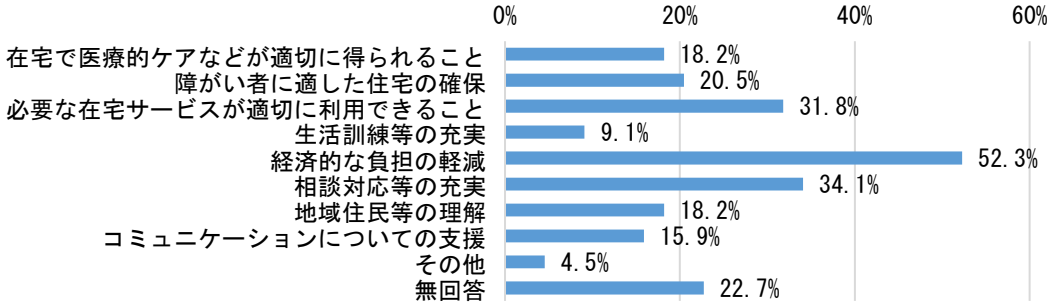


将来の住まい	n
一般住宅で一人暮らし	4 人
家族と一緒に生活	32 人
グループホームを利用	1 人
福祉施設に入所して暮らす	0 人
その他	5 人
無回答	2 人

■その他の内容

病院、現状のままでよい　他

問１５　希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればいいと思いますか。（複数回答）



■その他の内容

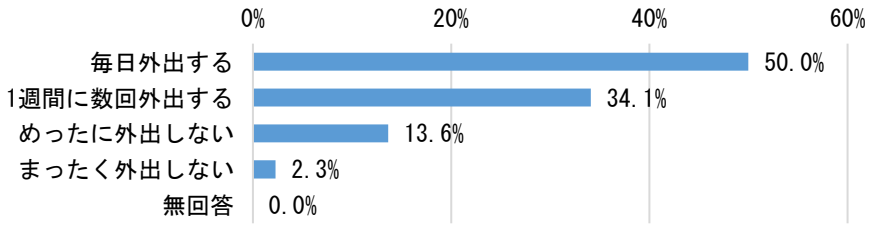
家族に対するケア

外出について

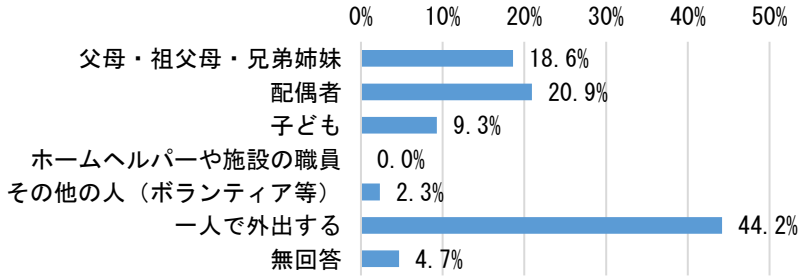
外出の頻度については、「毎日外出する」が 50.0%（22 人）、「１週間に数度外出する」が 34.1%（15 人）と全体の 84%を占めています。「まったく外出しない」は 2.3%（１人）で、入院中であることと障がいが重いことを理由として挙げています。

外出時に困ることについては、「公共交通機関が少ない（ない）」と「道路に段差が多くて歩きにくい」がそれぞれ 23.3%（10 人）とハード面に関する回答が多くなりました。なお、無回答が 30.2%（13 人）と最も多くなっています。障がい種別では、身体障がいだと「道路に段差が多くて歩きにくい」40.0%、知的障がいだと「困った時にどうすれば良いのか心配」44.4%が最も多くなり、障がい種別により回答が異なる傾向となりました。

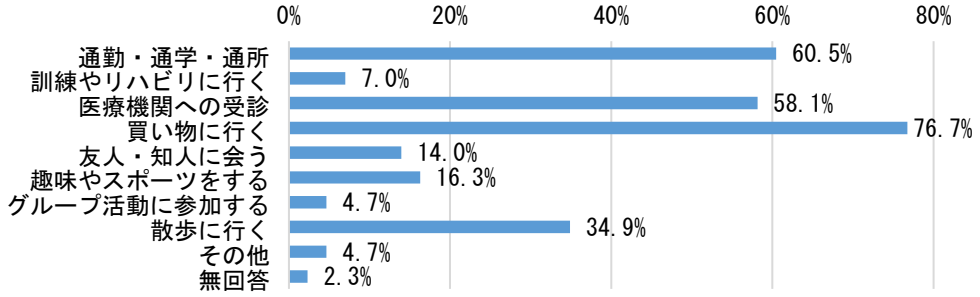
問１６　あなたは、１週間にどの程度外出しますか。



問１７　あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。



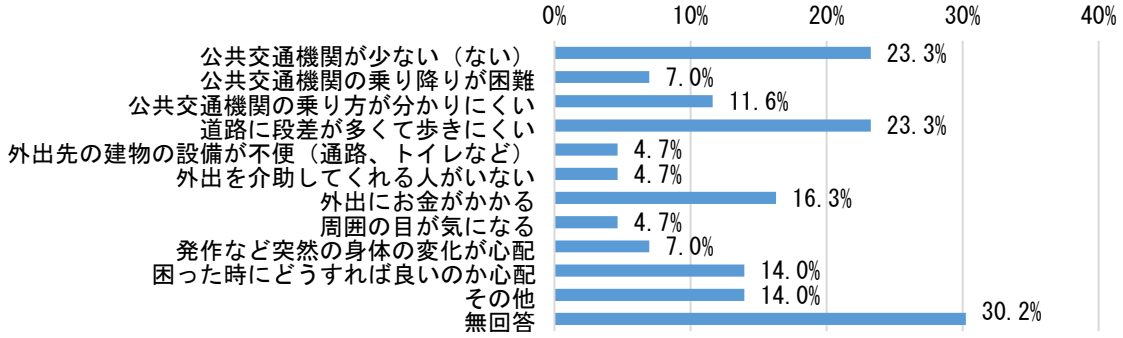
問１８　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（複数回答）



■その他の内容

外食する、のみにでる

問１９　外出するときに困ることは何ですか。（複数回答）



■その他の内容

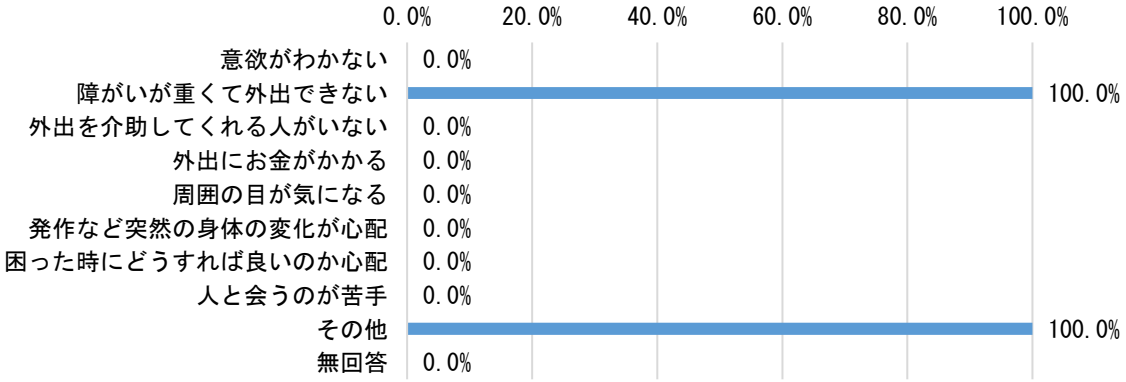
（困っていることは）ない、車の運転が不安　他

外出するときに困ること　×　障がいの状況

	全体	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい
公共交通機関が少ない(ない)	23.3	20.0	33.3	22.2	11.1
公共交通機関の乗り降りが困難	7.0	10.0	11.1	0.0	0.0
公共交通機関の乗り方が分かりにくい	11.6	5.0	22.2	22.2	11.1
道路に段差が多くて歩きにくい	23.3	40.0	0.0	0.0	11.1
外出先の建物の設備が不便	4.7	10.0	0.0	0.0	0.0
外出を介助してくれる人がいない	4.7	0.0	22.2	0.0	11.1
外出にお金がかかる	16.3	15.0	22.2	22.2	22.2
周囲の目が気になる	4.7	0.0	11.1	11.1	11.1
発作など突然の身体の変化が心配	7.0	5.0	0.0	11.1	0.0
困った時にどうすれば良いのか心配	14.0	5.0	44.4	0.0	11.1

（単位：%）

問２０　まったく外出しない理由は何ですか。（複数回答）



理由	n（人）
意欲がわかない	0
障がいが重くて外出できない	1
外出を介助してくれる人がいない	0
外出にお金がかかる	0
周囲の目が気になる	0
発作など突然の身体の変化が心配	0
困った時にどうすれば良いのか心配	0
人と会うのが苦手	0
その他	1
無回答	0

■その他の内容

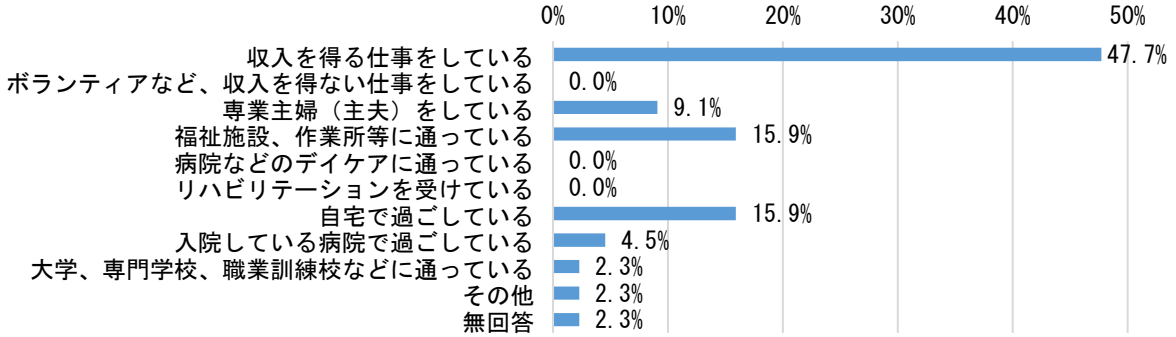
入院中

日中活動や仕事について

約半数の 47.7%（21 人）が「収入を得る仕事をしている」との回答で、さらにその半数（12 人）が正職員として勤務しています。「専業主婦をしている」「福祉施設、作業所等に通っている」「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」を含めると 75.0%（33 人）の方が何らかの役割を持ち、あるいは日中活動に従事していることとなります。

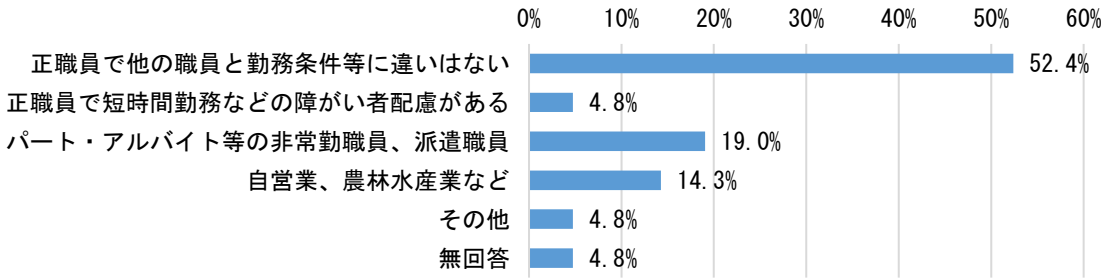
現在、収入を得る仕事をしていない方に今後の意向を尋ねたところ、56.5%（13 人）が「仕事をしたい」と回答しています。また、仕事を続けていくうえで困っていることでは、仕事量や内容、職場の人間関係の回答が多く、仕事を続ける（始める）うえで必要なことでは、障がいの理解、体調に合わせて勤務時間が変更できること、具合が悪くなった時の通院などの回答が多く、職場の理解に関する取り組みが就労やその後の定着の課題となっていると言えそうです。

問２１　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。



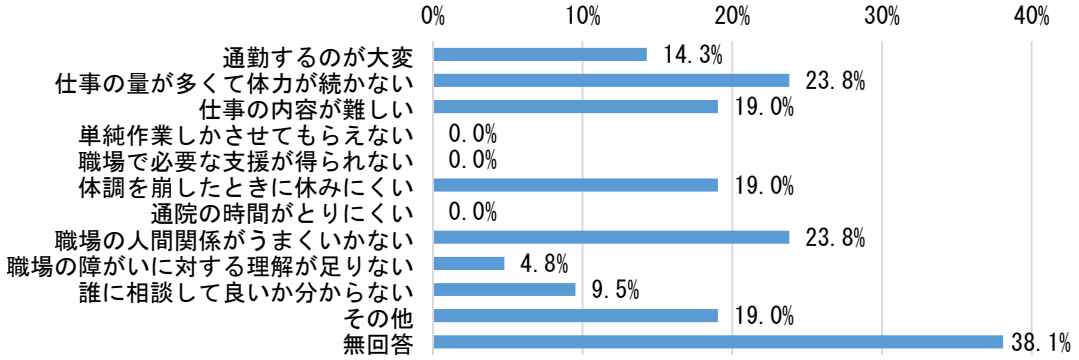
日中活動	n
収入を得る仕事をしている	21 人
ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	0 人
専業主婦(主夫)をしている	4 人
福祉施設、作業所等に通っている	7 人
病院などのデイケアに通っている	0 人
リハビリテーションを受けている	0 人
自宅で過ごしている	7 人
入院している病院で過ごしている	2 人
大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	1 人
その他	1 人
無回答	1 人

問２２　どのような勤務形態で働いていますか。　（ｎ＝21）



勤務形態	n(人)
正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない	11
正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある	1
パート･アルバイト等の非常勤職員、派遣職員	4
自営業、農林水産業など	3
その他	1
無回答	1

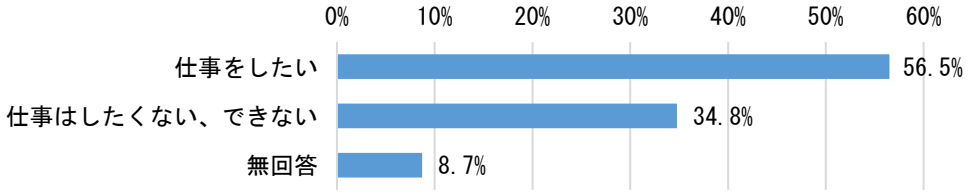
問２３　現在の仕事を続けていくうえで困っていることは何ですか。（複数回答）



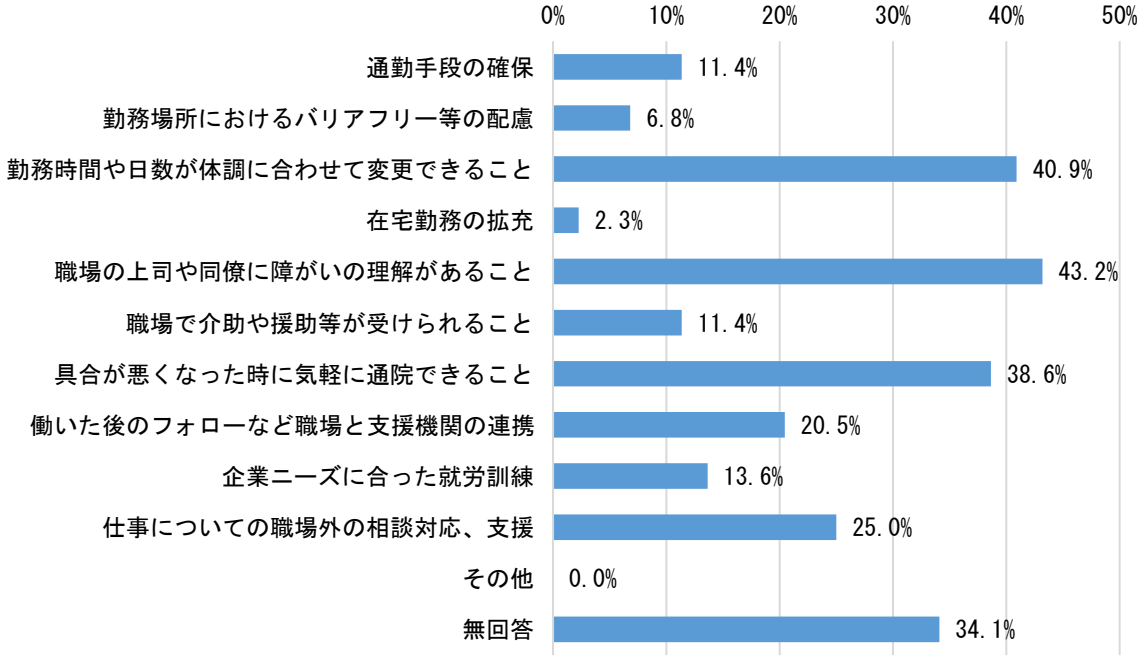
■その他の内容

仕事をおしつけられ休けいがとれない時ある、体調（精神面）をくずし休むことが多い　他

問２４　あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。（ｎ＝２３）



問２５　あなたは、仕事を続ける（あるいは、仕事を始める）うえで、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

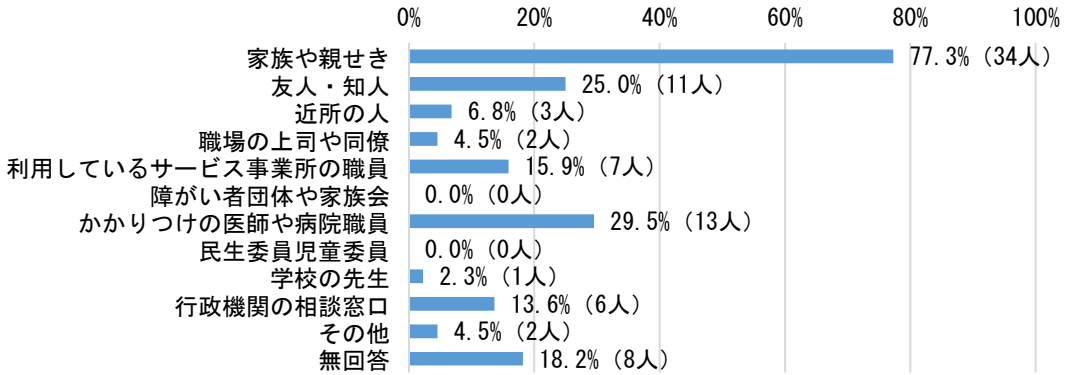


相談相手について

相談の相手については、「家族や親せき」が 77.3%（34 人）と最も多くなっています。次いで「かかりつけの医師や病院職員」が 29.5%（13 人）、「知人・友人」が 25.0%（11 人）、「利用しているサービス事業所の職員」が 15.9%（7 人）と、身近な人や定期的に会う機会のある人へ相談している状況がうかがえます。

障がいのことやサービスのことに関する情報の入手先については、「家族や親せき」が 29.5%（13 人）、「行政機関の相談窓口」が 27.3%（12 人）、「かかりつけの医師や病院職員」が 20.5%（9 人）の順に多くなっています。また、その他の中には「インターネットから情報を入手する」という方が３人いました。

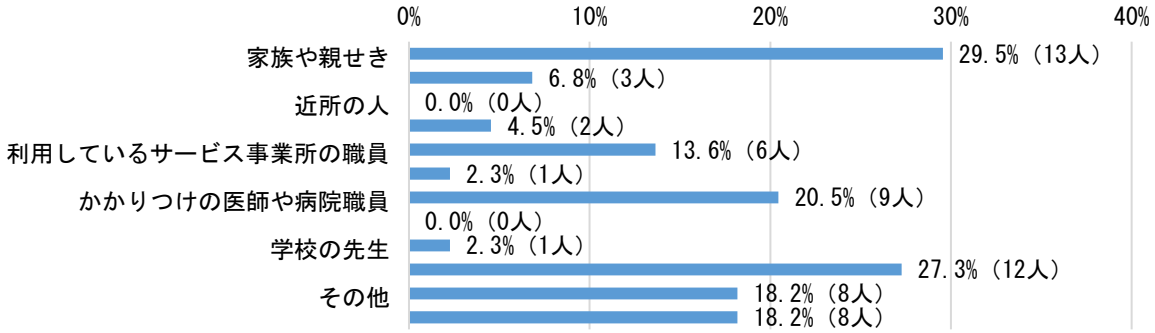
問２６　あなたは、普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（複数回答）



■その他の内容

（相談は）しない、（相談相手は）いない

問２７　あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（複数回答）



■その他の内容

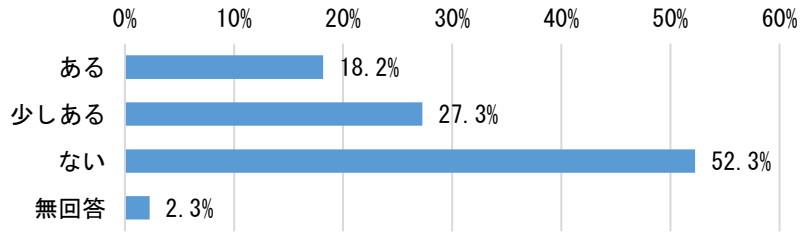
サービスを受けていません、何も情報は知られません、仕入れない、インターネットから

権利擁護について

障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）人は、「ある」「少しある」を合わせて 45.5%（20 人）となっています。

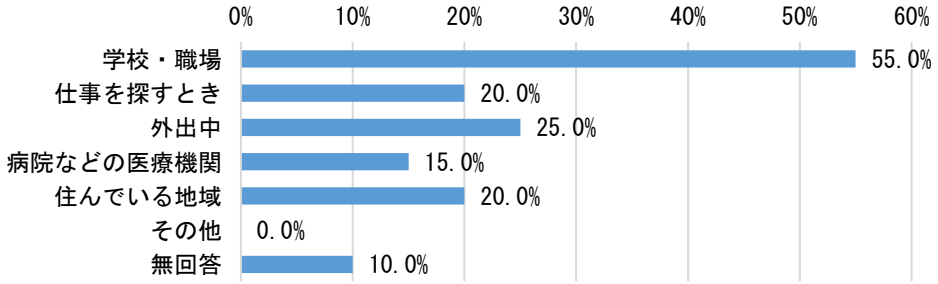
差別や嫌な思いをした場面については、「学校・職場」が 55.0%と最も多く、次いで「外出中」が 25.0%となっています。また、差別や嫌な思いの内容については、「嫌なことを言われた」が 65.0%と半分以上を占めています。

問２８　あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。

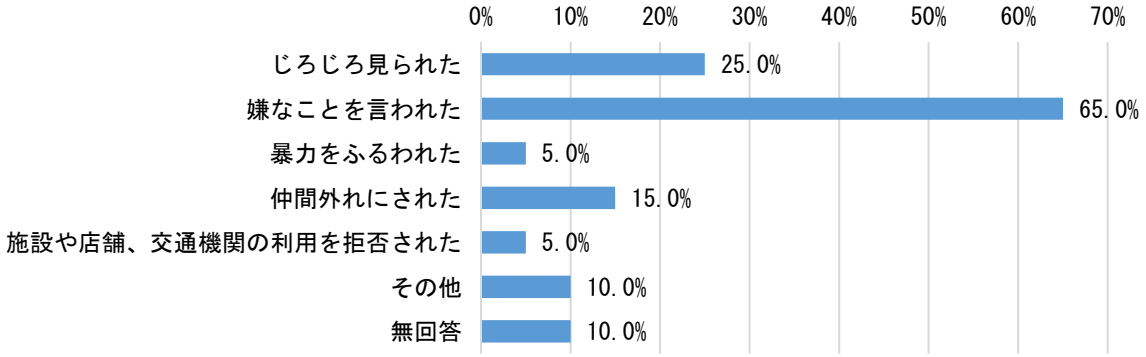


	n
ある	8 人
少しある	12 人
ない	23 人
無回答	1 人

問２９　どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。（複数回答）ｎ＝20



問３０　それは、どのようなことですか。（複数回答）ｎ＝20



■その他の内容

歩道で後ろから自転車でひかれそうになった

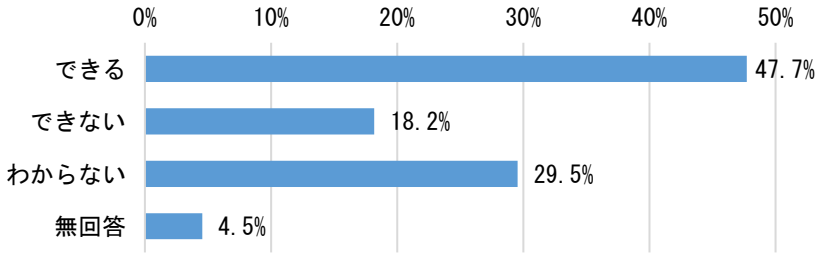
災害時の避難等について

災害時に一人で避難できるかについて、「できない」18.2%（8 人）と「わからない」29.5%（13 人）の合計が 47.7%（21 人）でした。

近所に助けてくれる人がいるかについて、「いない」29.5%（13 人）と「わからない」50.0%（22 人）の合計が 79.5%（35 人）で、そのうち上記の 21 人に限ると、「いない」と「わからない」の合計が 90.5%（19 人）となりました。

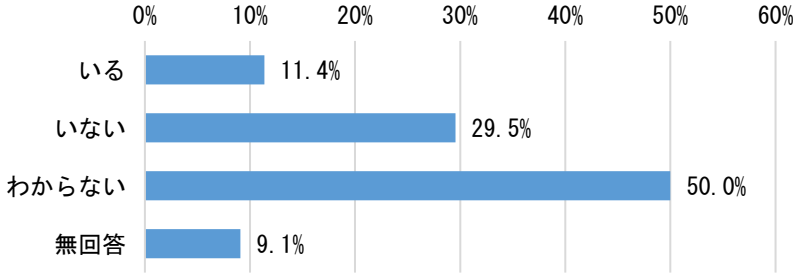
また、災害時に不安に感じていることについては、「避難場所の設備や生活環境が不安」が最も多く、次いで「災害時に手助けしてくれる人がいない」、「安全なところまで迅速に非難することができない」、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」といった避難行動に関する項目の回答が多くなっています。

問３１　あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。



避難できるか	n
できる	21 人
できない	8 人
わからない	13 人
無回答	2 人

問３２　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

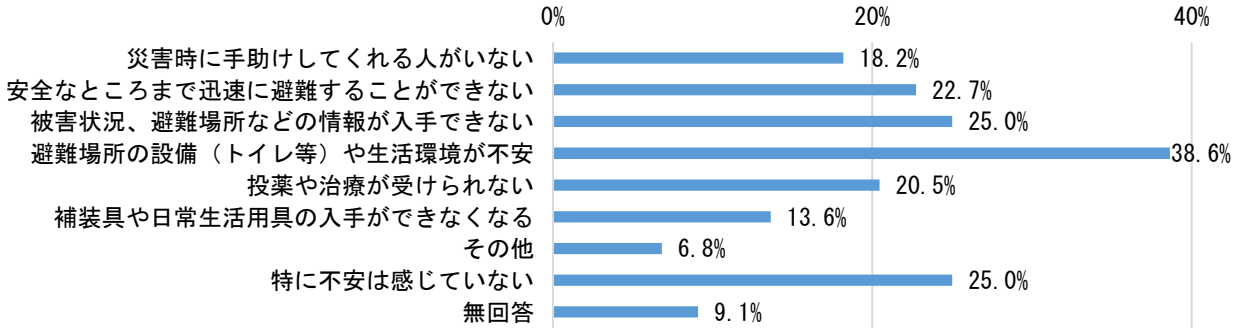


	n
いる	5 人
いない	13 人
わからない	22 人
無回答	4 人

火事や地震等の災害時に一人で避難できますか（できない 8 人、わからない 13 人）
× 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか

いる	1 人	4.8%
いない	9 人	42.9%
わからない	10 人	47.6%
無回答	1 人	4.8%

問３３　火事や地震等の災害時に不安に感じていることは何ですか。（複数回答）



■その他の内容

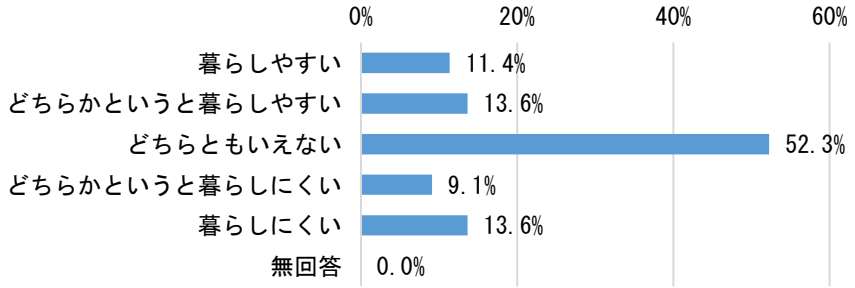
障がいがあっても避難所で生活できるか不安、どうしたらいいのかわからない　他

これからのまちづくりについて

上士幌町について、「暮らしやすい」、「どちらかというと暮らしやすい」と回答した方は合計25.0%（11 人）です。「暮らしにくい」、「どちらかというと暮らしにくい」の合計もほぼ同数の22.7%（10 人）です。

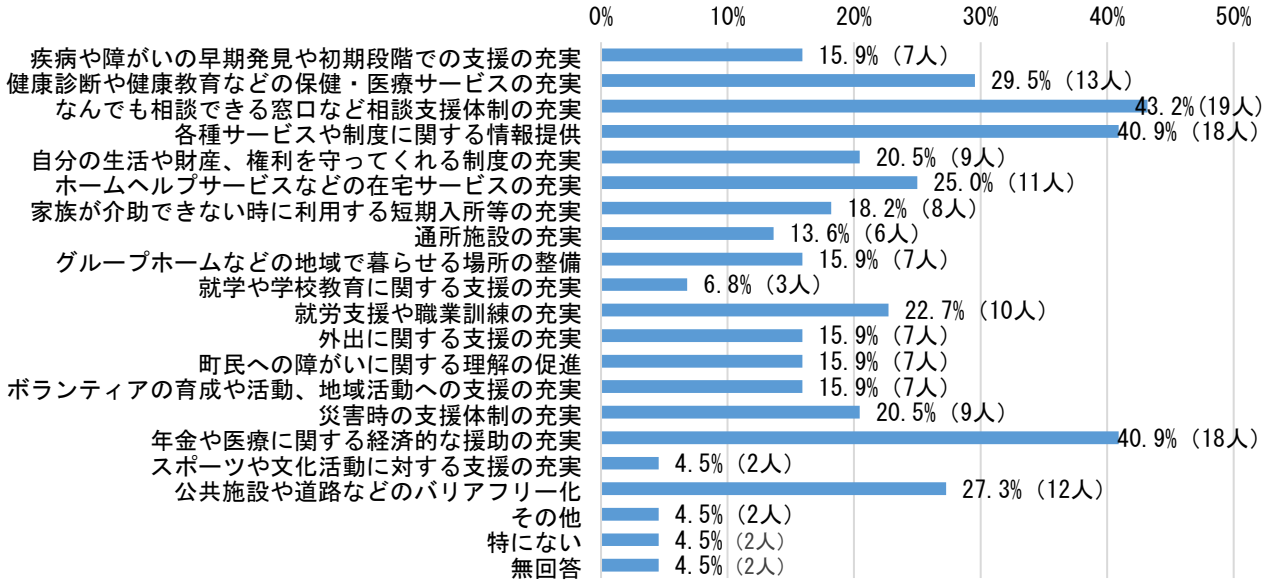
今後、力を入れるべき取り組みについて、「相談支援体制の充実」が最も多く、43.2%（19 人）です。次いで、「各種サービスや制度に関する情報提供」と「年金や医療に関する経済的な援助の充実」が 40.9%（18 人）となっています。

問３４　上士幌町は障がいのある方にとって暮らしやすい町だと思いますか。



暮らしやすさ	n
暮らしやすい	5 人
どちらかというと暮らしやすい	6 人
どちらともいえない	23 人
どちらかというと暮らしにくい	4 人
暮らしにくい	6 人
無回答	0 人

問３５　障がいのある方への支援として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
（複数回答）



■その他の内容

・冬場など足場が悪い時、買い物は困難なので移動販売など近くで買い物ができるサービスがあるとよいと思う。 ・住まいの確保。低価格で住める家が必要と思う。

その他自由記載

運動のため散歩は欠かせないのですが、歩道のデコボコが見えないので、道路を歩いています。
観光客、移住者に金をつかうのではなく、ずっと上士幌にいる町民によりよい生活をおくってもらうために金をつかってください。先祖代々100 年上士幌にいる町民をたいせつにしてください。
車イスでは、上士幌町内すべて、1 人では出られません。1cmの段差があっても、車イスを動かすのはたいへんです。ほとんどがバリアフリーになっていません。車イスでも出られるように考えてください。
病院代がたくさんかかります。社会へ出て収入を得るまでは病院代が無料になると助かります。18 歳（高校 3 年生）まででではなく、障がい者は学生が終わるまで病院代がかからないとうれしいです。
仕事をしたい。
当事者だけでなく、その家族へのサポートがもっと充実していればいいなと思います。相談だけでなく、障害についての理解が深まるような施策を希望します。（家族に自分のことを理解されないのが一番辛い）
上士幌 44 号から音更にバスで買い物に行っています。バスの本数がもう少し増えたらうれしいです。
発達障害で精神手帳を持っています。先天的な障害です。更新ごとの診断書をとるためだけに通院している現況です。通院の労力、金銭面も負担です。身体手帳のように発達障害での手帳所持者は更新手続きを免除、もしくは簡略化してもらえると助かります。

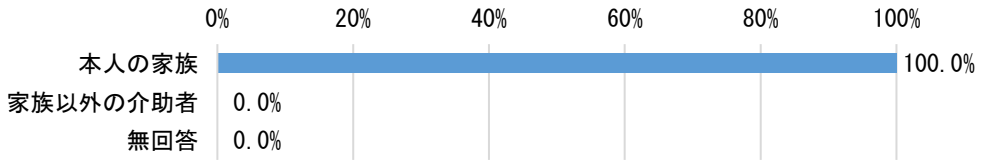
現段階でどのような施策があるのか分からない。
住み慣れた町で安心して暮らすことができる町づくりが行われることを期待しております。
町内にどれ位の障害のある方がいるのかよくわかりませんが、障害のある方や高齢者（認知症）等への理解を町ぐるみで行ってはどうかと思います。アンケート欄に差別や偏見という項目がありましたが、子どものころから学校等で町の福祉や障害等への教育、学ぶ場があれば、障害あるなしに関わらず互いに気にかけながら暮らすことができると思います。

調査結果〈福祉サービス利用児童等〉

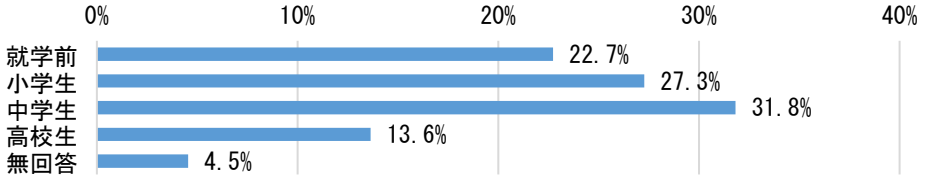
回答者の基本事項

・質問文中「あなた」とあるものは、福祉サービスを利用している児童等（お子さま）のことです。
・グラフ内に注記がない場合は、ｎ（人数）は２２名です。

問１　お答えいただくのは、どなたですか。

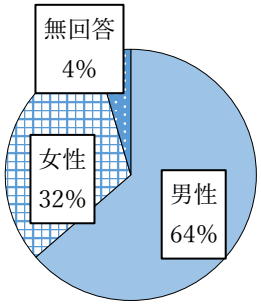


問２　あなたの年齢をお答えください。



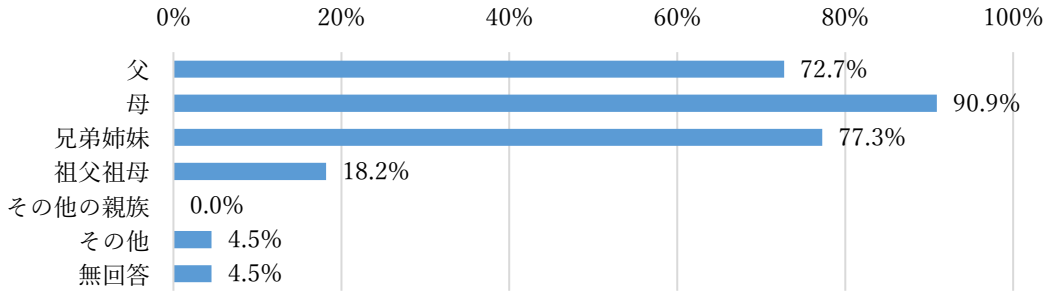
年齢	n
就学前	5 人
小学生	6 人
中学生	7 人
高校生	3 人
無回答	1 人

問３　あなたの性別をお答えください。



性別	n
男性	14 人
女性	7 人
無回答	1 人

問４　いま、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（複数回答）



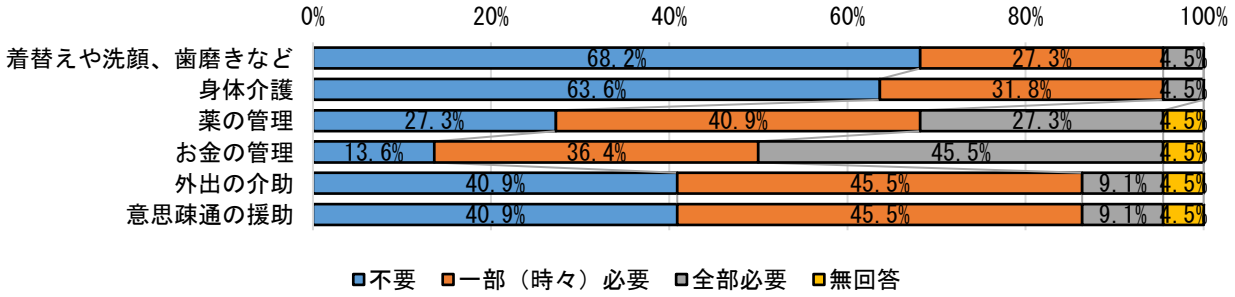
■その他の内容

夏、冬、春休み以外、高校の寮生活

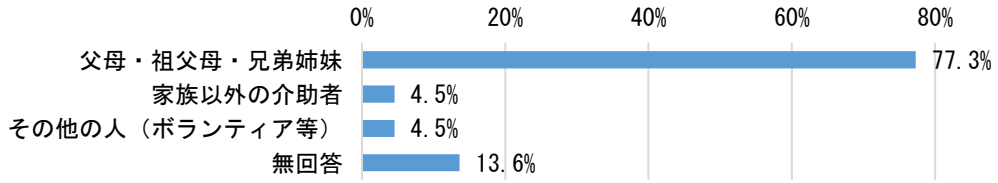
支援の必要性の度合い

どの項目についても、障がい者に対する調査結果と比較して児童の方が一部（時々）必要と全部必要の合計が同等または高い割合となっています。

問５　日常の生活の中で、次の支援が必要ですか。

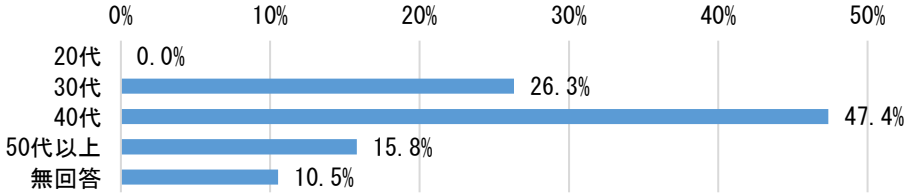


問６　あなたを支援してくれる人は主に誰ですか。（複数回答）

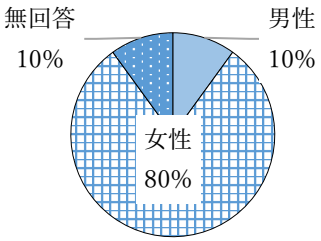


問７　支援してくれる家族の状況について

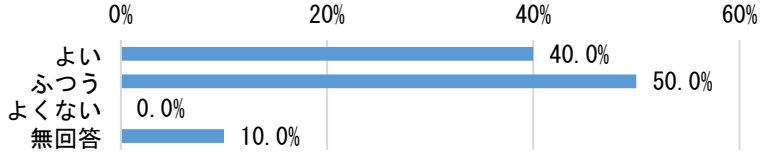
①　年齢



②　性別

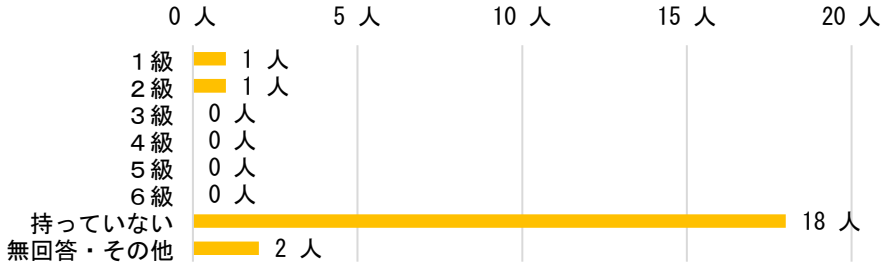


③　健康状態

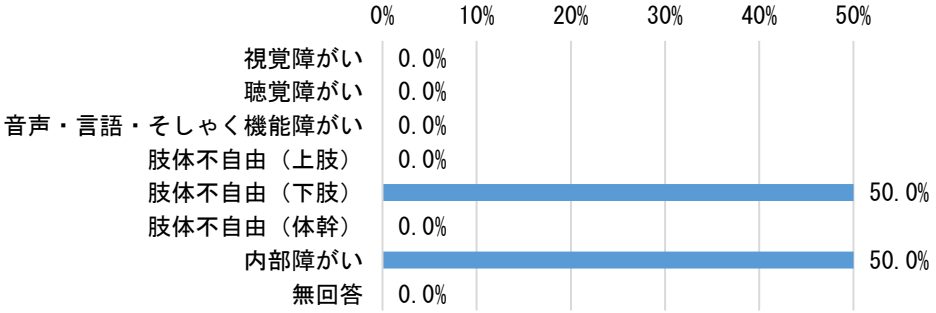


障がいの状況

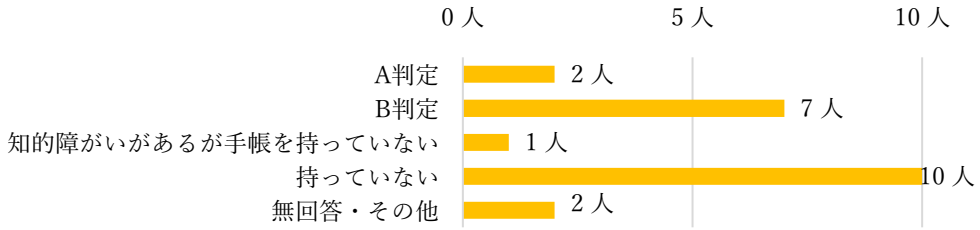
問８　あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。



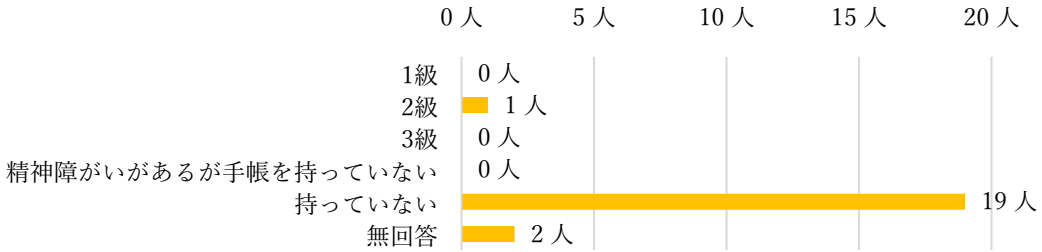
問９　身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。



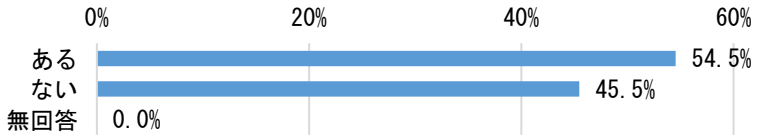
問１０　あなたは療育手帳をお持ちですか。



問１１　あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。



問１２　あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。

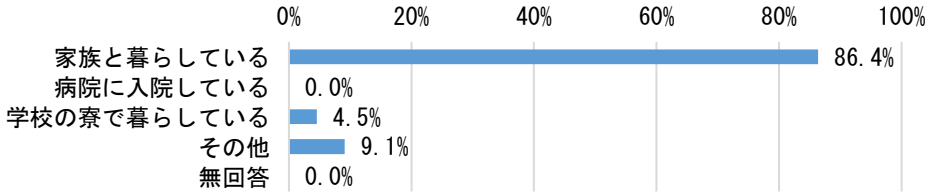


住まいや暮らしについて

現在は高等養護学校で入寮などした方以外は家族と同居していますが、将来の希望では「家族と一緒に生活したい」が 18.2%（4 人）で、半数以上の方が単身生活を考えています。また、「その他」の記載で、まだわからないと回答された方もいました。希望する暮らしを送るための支援では、「困ったときに聞いてくれて助言する窓口の充実」68.2%（15 人）が最も多くなったことをあわせて、今後の相談支援の必要性が高いということが考えられます。

その他、希望する暮らしのための支援では、「周りの人が障がいのある人を理解してくれる」59.1%（13 人）、「生活に必要なことを練習できる場所や機会」と「経済的な負担の軽減」54.5%（12 人）が上位の回答となっています。

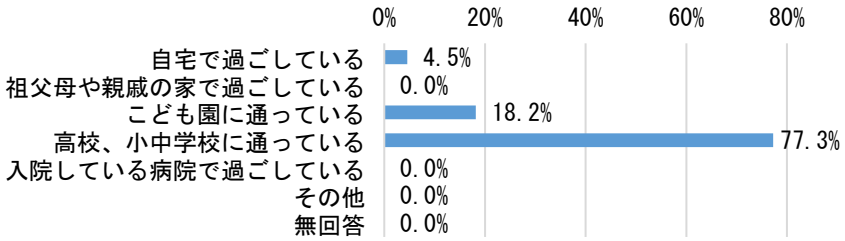
問１３　あなたは現在どのように暮らしていますか。



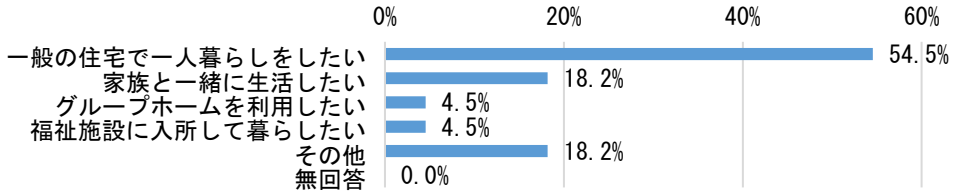
■その他の内容

祖父母と暮らしている、寮生活で週末のみ自宅

問１４　あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。



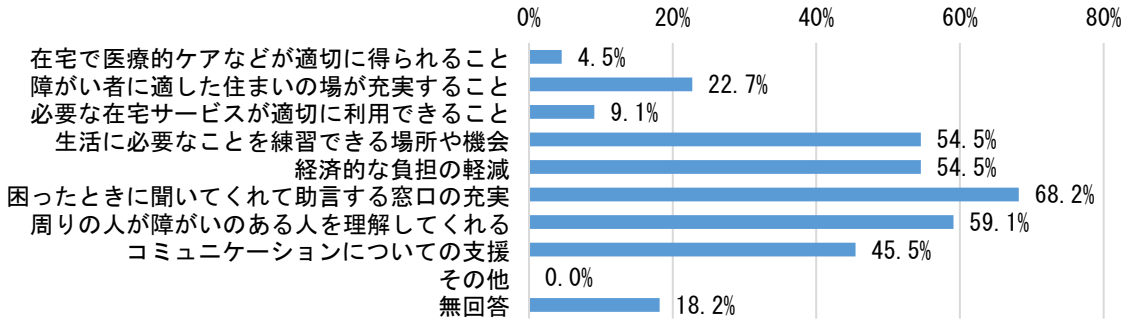
問１５　あなたは将来、どのような場所で生活したいと思いますか。



■その他の内容

就労してその会社の寮で一人暮らし、わからない、まだ小３なのでこれからどうなるかわからない

問１６　希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればいいと思いますか。（複数回答）

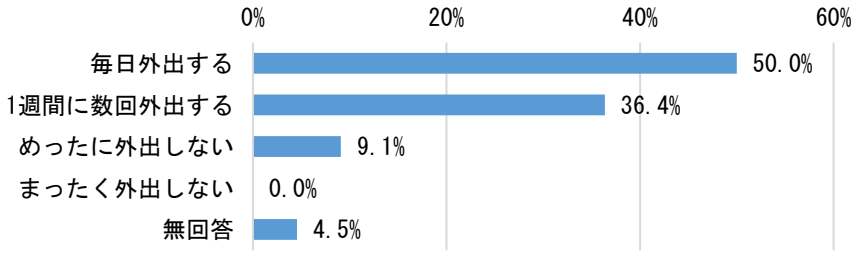


外出について

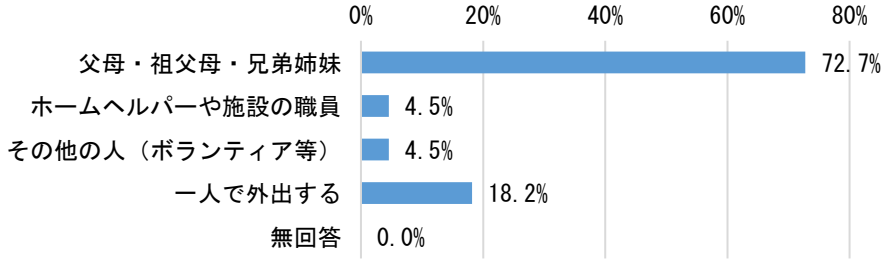
外出頻度については、「毎日外出する」が 50.0%（11 人）、「1 週間に数回外出する」が 36.4%（8 人）と全体の 86%を占めています。「まったく外出しない」は 0 人です。

外出時に困ることについては、「困った時にどうすれば良いのか心配」が 38.1%（8 人）で最も多く、次いで「公共交通機関が少ない（ない）」と「周囲の目が気になる」がそれぞれ 19.0%（4 人）となっています。

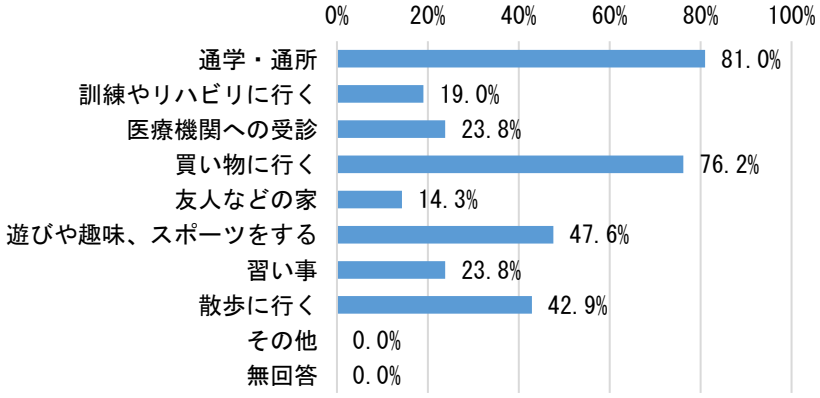
問１７　あなたは、一週間にどの程度外出しますか。



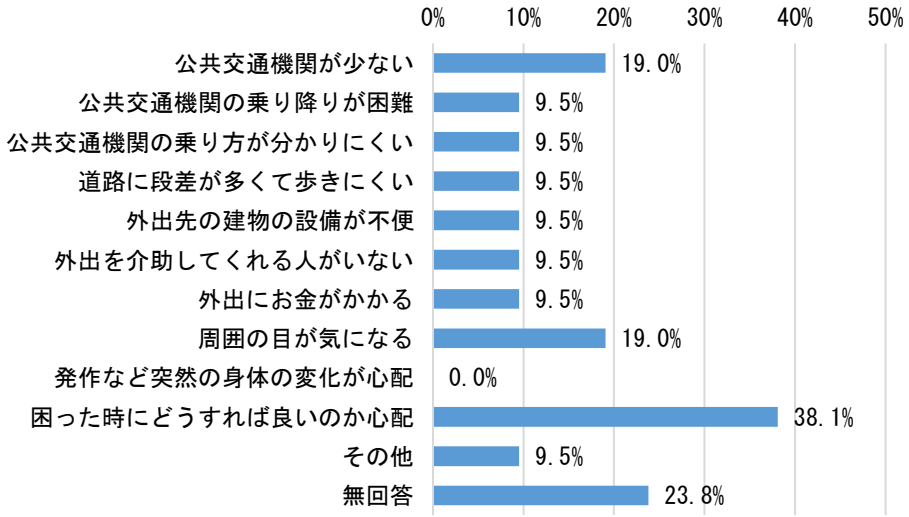
問１８　あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。



問１９　あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（複数回答）



問２０　外出するときに困ることは何ですか。（複数回答）



■その他の内容

・はじめての場所、人が多い場所、暗い場所、入れずパニック起こすことが多い。 ・落ち着きがない

問２１　まったく外出しない理由は何ですか。

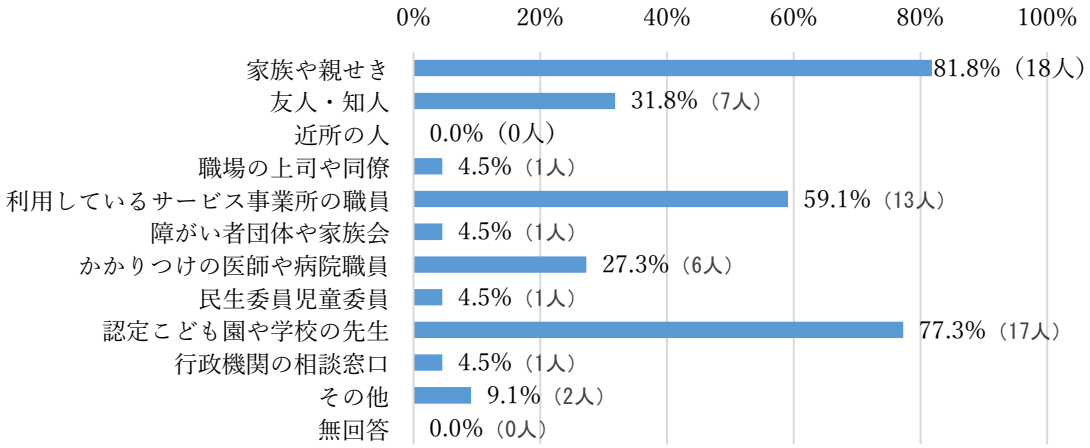
…「まったく外出しない」と回答した方はいませんでした。

相談相手について

回答の多かった順に「家族や親せき」が 81.8%（18 人）、「認定こども園や学校の先生」が 77.3%（17 人）、「利用しているサービス事業所の職員」が 59.1%（13 人）となっています。日常的に顔を合わせる機会のある人へ相談している状況がうかがえます。

一方、障がいのことや福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「利用しているサービス事業所の職員」が 68.2%（15 人）で最も多く、相談相手で最も多かった「家族や親せき」は 0%でした。サービス事業所が相談の入り口として認知されていることが考えられます。

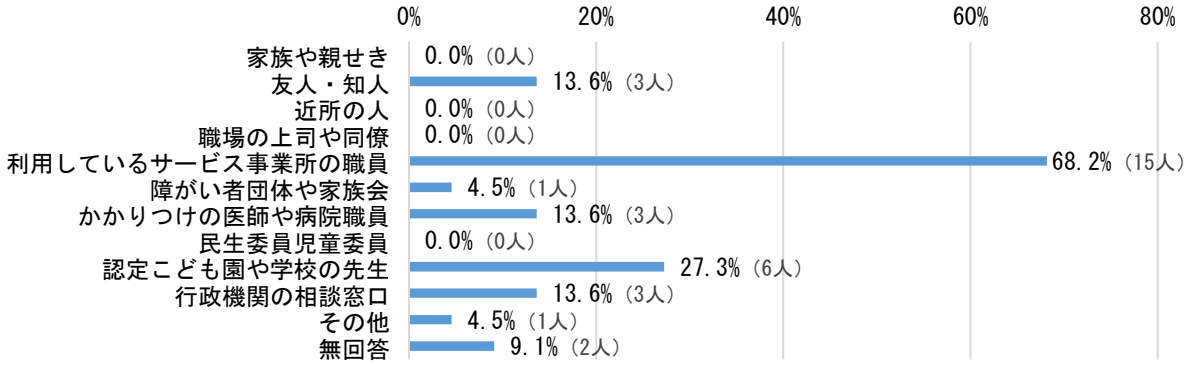
問２２　あなたや保護者の方は、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。（複数回答）



■その他の内容

野球少年団の指導者、相談事があっても自分から話さない。

問２３　あなたや保護者の方が障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（複数回答）



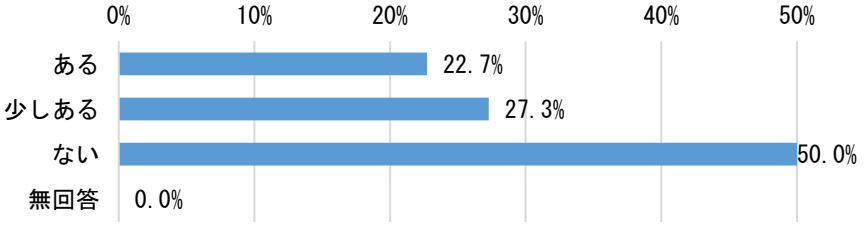
■その他の内容

インターネット

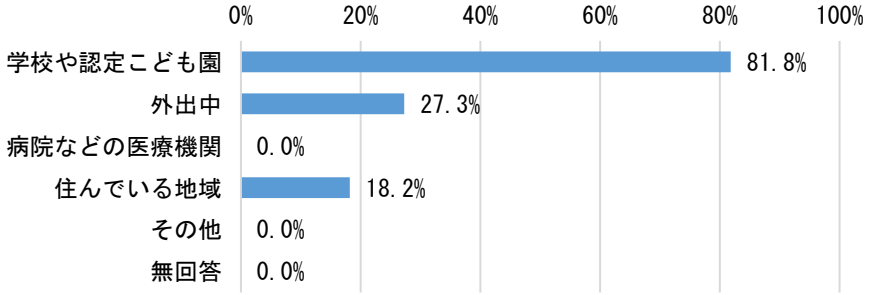
権利擁護について

障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）人は、「ある」「少しある」を合わせて 50.0%（11 人）となっています。
差別や嫌な思いをした場面については、「学校や認定こども園」が 81.8%（9 人）を占めています。また、差別や嫌な思いの内容について回答が多かったのは、「嫌なことを言われた」が 90.9%（10 人）、「仲間外れにされた」が 54.5%（6 人）となっています。

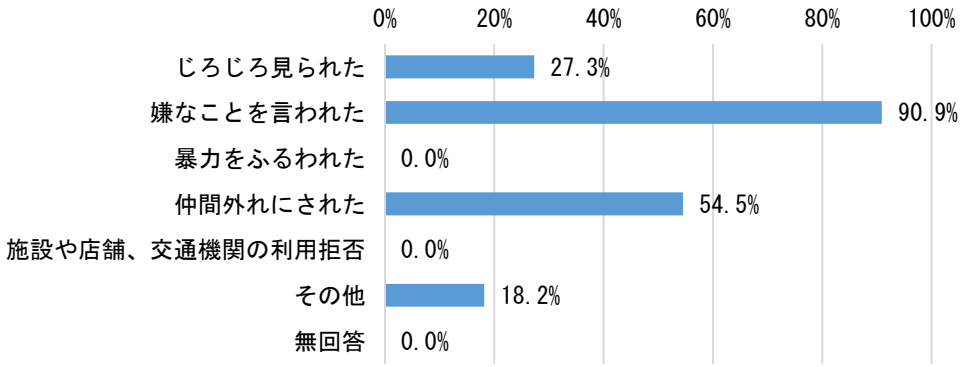
問２４　あなたや保護者の方は、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（複数回答）



問２５　どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。（複数回答）ｎ＝11



問２６　それは、どのようなことですか。（複数回答）ｎ＝11



■その他の内容

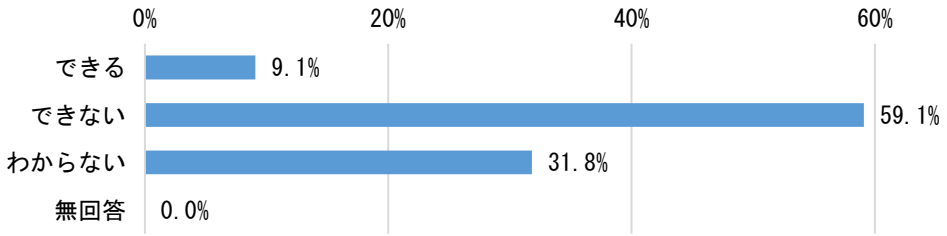
不理解からの暴言や行動、嫌がらせを受けた

災害時の避難等について

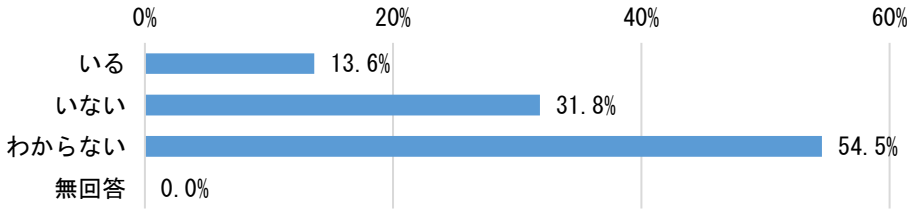
災害時に一人で避難できるかについて、「できない」59.1%（13 人）と「わからない」31.8%（7 人）の合計が 90.9%（20 人）で、保護者など周囲の手助けが必要と考えられますが、家族以外に近所に助けてくれる人がいるかについて、「いない」31.8%（7 人）と「わからない」54.5%（12 人）の合計が 86.3%（19 人）でした。

災害時に不安に感じていることについては、「避難場所の設備や生活環境が不安」が最も多い回答となり、生活環境の変化に対する配慮や対応が求められていると考えられます。

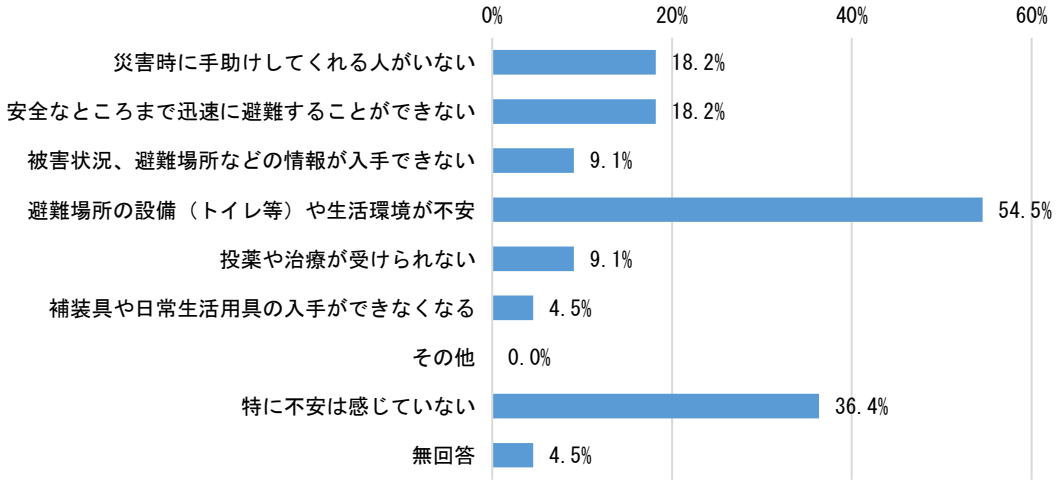
問２７　あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。



問２８　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。



問２９　あなたや保護者の方が、火事や地震等の災害時に不安に感じていることは何ですか。（複数回答）

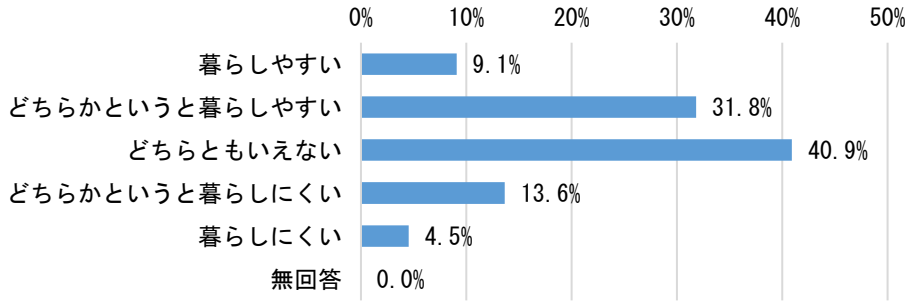


これからのまちづくりについて

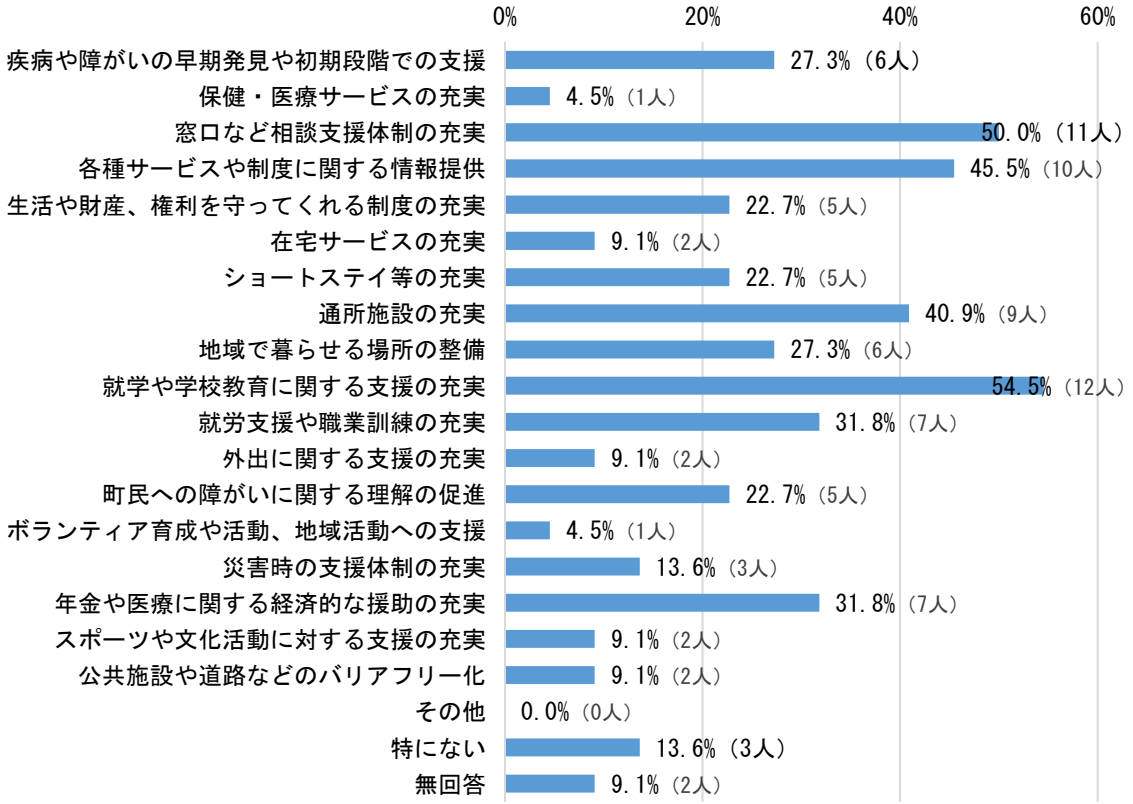
上士幌町について、「暮らしやすい」、「どちらかというと暮らしやすい」と回答した方は合計40.9%（9人）で、「暮らしにくい」、「どちらかというと暮らしにくい」の合計18.1%（4人）を大きく上回っています。

今後、力を入れるべき取り組みについて、「就学や学校教育に関する支援の充実」が最も多く、54.5%（12人）でした。次いで、「相談支援体制の充実」が50.0%（11人）、「各種サービスや制度に関する情報提供」が45.5%（10人）となっています。

問３０　上士幌町が障がいのある方にとって暮らしやすい町だと思いますか。



問３１　障がいのある方への支援として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）



その他自由記載

遠方に通院するための交通費を出してほしいです。他市町村では出してくれる所もあるようです。
来春高校への進学を控えているが、結果として中札内高等養護学校の 1 択しかない。学力的に上士幌高校への進学も可能だが、入学後の勉強面への支援や就職活動などについて考えたときに、不安しかなく選択できなかった。 幕別や新得の学校も、通学をすることを考えると選択できない。（幕別まで2時間、新得まで2時間半を障害児が3年間通学できるか…） また、町内での就職ができるかについても情報はほとんどない。障害者雇用のある企業がないとなると、卒業後も上士幌には帰れなくなる。小さい時に手厚く対応してもらえても、親が死んだ後の生活が大切。障害者が皆と同じように長く暮らせる町であってほしいと思っています。
サポートセンター白樺を利用しております。利用時間について、8:30～17:15 までとのことで、学校のある日は問題ないのですが、夏休みは仕事が 8 時過ぎにはじまってしまうため利用できず、祖父母の家であずかってもらっています。できれば利用したいのですが、町の方で、これらの予算をつけて頂くことはできないでしょうか？
障がいのある人の受け入れ先がなく、この先不安でしかない。通所支施にしても遠く、子供のこと、将来のことを考えると引越しをしなければいけない。 子供に対しての支援はだいぶ手厚くなって感謝しているが、その先についても考えてほしいと思う。
学校に登校できない子、登校しぶりの子の居場所づくり。 学習・コミュニケーション・心の安心、保護者の相談ができる場所を上士幌町内につくってほしい。
フリースクールみたいなところが上士幌にあればいい
子供に関しては、とても暮らしやすい町です。が、差別は、なくなりません。
まだ良く分からない。